

曾根崎心中

若州人形座 竹人形文楽

原作 近松門左衛門
脚本 水上勉
演出 幸晃彦
語り 飛鳥井かづり

2024年

6月15日(土)・16日(日)

午後1時30分開場 午後2時開演

会場 若州一滴文庫くるま椅子劇場

料金 3,000円(全席自由) 予約開始日/4月20日(土) 定員 160名

主催/特定非営利活動法人一滴の里

後援/おおい町教育委員会

題字/渡辺 淳

■お問い合わせ・お申し込み

若州一滴文庫

〒919-2116

福井県大飯郡おおい町岡田33-2-1

特定非営利活動法人 一滴の里事務局

TEL:0770-77-2445 FAX:0770-77-2366

HP:<https://www.itteki.jp/>

[休館日] 火曜日(祝日の場合は開館、翌日休館)

QRコードを読み取って
スマホからカンタンに
チケットお申し込み!



若州一滴文庫
ホームページ



曾根崎心中

想いを寄せ合う、天満屋の遊女お初と醬油屋の手代徳兵衛。

徳兵衛は叔父でもある店の主人が持ちかけた縁談を断るが、故郷の強欲な継母が縁談の持参金を勝手に受け取り、その金を主人に返さなければ、大阪から追い出されるはめに陥ってしまう。

やつの思いで継母から取り戻したその大切な持参金を、徳兵衛は友人の油屋九平次に貸してしまう。しかし九平次は期日が来ても返さないばかりか、「金を借りた覚えはない」とうそぶき、逆に徳兵衛を町内衆の前でかたり呼ばわりして痛めつける。

金をだましとられた上に恥をかかされた徳兵衛は、身の潔白を示すため死を覚悟して、天満屋にお初を訪ねる。

お初の手引きで徳兵衛が縁の下に身をひそめているところへ、現れた九平次が徳兵衛をさらに中傷する。お初は齒がみする徳兵衛を足の先で押ししずめ、心中する覚悟を知らせる。

その夜二人はひそかに店を抜け出し、来世で添い遂げようと曾根崎の森へ向かう……。

原作 近松門左衛門

脚本 水上 勉

演出 幸 晃彦

人形美術

衣装デザイン 植田いつ子

衣装提供 壽光織

かしら 高橋弘子

竹人形ボディ 岸本一定

出演

語り 飛鳥井かゞり

人形遣い

静永 鮮子

塚原 史郎

吉田 貴志

くぬぎ 森子

工藤 琢人

河合 厚志

篠笛作曲・演奏 辻あつこ

スタッフ

照明 福井邦夫・中村藍子

音響 廣瀬義昭
(有)ティーアンドクルー

舞台監督 須川由樹
(有)ティーアンドクルー

島田 慎二

中井 麻美

舞台美術 幸 晃彦

協力 向坂典子

